大念佛

No.73
発行／融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巌良舜

御遠忌満行

融通念佛宗管長
倍巌良舜

開宗九百年記念・再興大通上人三百回御遠忌大法要が去る五月一日より七日まで総本山大念佛寺に於て述べ数万人の御参詣のもと厳修され無事成満致しました。本宗総力をあげての大法要が佛天の御加護のもと満行できたことは誠に有難いことであります。

六年程前より宗議会議長肥田憲仁師、評議会議長藤田文雄氏、教区会会長辻良俊師等の方々を中心に諸役の長の方々を委員にむかえ開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌奉修局が設立されました。

「教宣法要部」では浜田全真師を部会長として活動され、記念論文集『融通念佛宗における信仰と教義の邂逅』を始め『融通妙宗課誦要略』『常用法式集』、DVD『ほとけのひかり』等数々の出版物の刊行、法要、教義の研究等本宗教宣について貴重な教示を頂きました。

「記念事業部」では白井忠雄師を部会長として、「延喜殿」の建設という大きな事業がありました。幾多の困難をのりこえ平成二十六年一月に三階建の立派な延喜殿が竣工致しました。これによって今後は、大法要、研修会、講演会、来賓接待等に大いに活用できることとなりました。

「勧財会計部」は福井昭典師を部会長として、御遠忌をつとめる為の財源の確保につとめて頂きました。教区長を中心として末寺御住職、寺族、檀信徒の皆様のご理解とご協力により、多くの浄財を頂くことができました。誠に有難いことであります。

開祖聖應大師　良忍上人は貴族中心社会から武家社会に移行する大変革時代で、大社寺もまた神人、僧兵等の武力を持ち俗化していくことをなげかれ、比叡山をおりて大原で修行の上、京、大坂等で庶民のために融通念仏を説かれました。

また、江戸時代元禄期には大通上人は融通念佛宗再興を幕府に認めてもらう為、大坂、江戸間を数回往復されました。片道約二十日を要したと思われます。そして大念佛寺の整備、宗学確立のため『融通圓門章』『融通念佛信解章』の上梓等宗門復興のため心血をそそがれました。

「開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌」は満行致しましたが、良忍上人、大通上人、この二大偉人に思いをはせ、その時代に即した行跡をたたえ、報恩謝徳のまことを捧げたいものであります。

御遠忌大法要を終えて
"念仏行によって報恩を"

融通念佛宗 宗務総長　吉村暲英

開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌大法要が、仏祖のお冥加のもと宗内寺院ならびに檀信徒各位のご支援、ご協力のおかげで無事成満致しました。厚くお礼申し上げます。

この大法要を迎えるために、五年以上も前から浄財のご寄進をお願いし、各種事業計画を練ってきました。皆さまがたのお力をいただき、当初の計画が達成できたことは何よりの喜びです。省みて感慨無量の思いです。

法要中の一週間は天候にも恵まれ、多数の参詣者で連日、活況を呈しました。前行（午後の練り供養法要に先立つ午前の法要）では、参詣者ともども日課念仏を唱和し、本堂内にお念仏の声が響きわたりました。自分の称える念仏が、他者の念仏の声と一つに融け合った力強い融通念仏でした。この念仏の声の中に、開宗九百年を讃え、宗門再興の大通上人への報恩の思いがこめられている実感を味わいました。

御遠忌大法要が満行したとはいえ、この大法要の成果が試されるのはこれからです。甚だ抽象的な言い方になりますが、いかにして人びとの心に融通念仏信仰の灯をともし続けるか、という大きな課題の前に立たされたからにほかなりません。

念仏を以って教えの根幹とするわが宗においては、念仏こそが人間相互の温かい交流をはぐくみ、自己を生かし、他を生かす道であるとの信念をもっていただくことが、祖師報恩の大切な心がけであります。

宗門としましては、今後はこの趣旨に沿って、日常生活の中での具体的実践に取り組んでいくことが肝要であると考えています。

ともに精進を誓い合いたいものであります。

"お盆"
―まごころの供養を

融通念佛宗 宗務総長　吉村暲英

盆と正月は一年を通じて日本人の国民的行事の中で、最大かつ代表的なものである。

江戸時代に出た『俚言集覧』の中に、「盆と正月がいっしょに来た」というよく知られた諺があり、極めて多忙なことの表現に用いられた。また同書に「盆三日は嫁と姑の仲がよくなる」というのがある。これはお盆に作るご馳走は、暑い時分のことで腐りやすく、姑もしかたなく嫁に食べさせるので嫁が喜び、盆の三日間は二人の仲がよくなるというのである。今の若い世代には理解しにくいことであろうが、ひと昔前の嫁姑の間柄をいいあてて妙である。

また「薮入」は、正月と盆の十六日、あるいはその前後に、奉公人が主人から暇をもらって実家に帰ることや、他家に嫁いだ娘が婚家の主人の許しを得て実家に帰ることをいう。

ここにも盆と正月に対する日本人の心情がよく表れている。

今では盆、正月は公認された休暇のような感じがあるが、元来、この二大行事は先祖の魂祭り（霊祭り）として、日本人の心に根ざした仏教行事であった。

先祖の霊を招き、懇ろに供養するというものである。これは亡き人と現存者とが生死の境を超えて一つになることを意味している。心づくしのご馳走を供え、それを下げてみんなで食す。それによって一層、ご先祖さまとの一体感が増す。

「節」「御節」「節会」などの言葉は今も各地で使われているが、江戸時代には季節のかわりめの祝日を人日（正月七日）、上巳（三月三日）、端午（五月五日）、七夕（七月七日）、重陽（九月九日）の五節句とした。転じてその日に作るご馳走やお供えを意味するようになった。節句はもとは節供であり、神仏へ捧げる供物のことであった。正月の「おせち料理」ももとは神仏や祖霊に供する食事であり、人はそれを食することにより、その霊力をいただき神仏と一つになる。また先祖と一つになることを願った。

施餓鬼と供養

盂蘭盆会（お盆の法要）に精霊を供養するために各地の寺々では施餓鬼が営まれる。

その趣旨は法界施餓鬼といわれるもので、悪道に堕ちて飢餓に苦しんでいる衆生や餓鬼にお経の功徳を手向け、飲食を施し、苦しみを除き、安楽の世界に導くものである。

人からかえりみられない無縁仏や、あらゆる生き物の霊（これを天地幽顕水陸諸霊、蠢々含霊という）を平等に供養する法要である。

法界施餓鬼に付随して、必ず各家の先祖供養を行なう。それを次施餓鬼（法界施餓鬼に次いで行なうという意）、または添施餓鬼という。

施餓鬼のこころは有縁の霊すなわち肉親、友人等、自分に縁ある人の霊、無縁の霊すなわち、直接かかわりのない他者の霊、及び三界万霊といって、この世界の生きとし生けるすべての者に対し、供養のまこと心を捧げることである。

供養とは、身（動作）、口（ことば）、意（こころ）によって、物と心を供えて奉仕することをいうが、具体的には合掌、礼拝、飲食（水、茶、食事）等を捧げることをいう。総じて供養とは、限りない敬いと感謝のこころを差し向けることである。

供養の諸相

身・口・意の三業（三つのはたらき）をもって供養するのにはどのようなことを心がけるべきであろうか。

身業供養…仏壇、墓所、霊壇等をきれいにし、灯火、香、花、水、お茶、供物を献じ、合掌、礼拝を捧げる。

口業供養…霊前への語りかけ。また僧を招いて経、陀羅尼、念仏を誦してもらう。

意業供養…誠心誠意を尽くす。

右のうち身業と口業による供養は事供養であり、意業は理供養にあたる。身と口の供養を尽くせば自ずと意業が清まり、意業（理供養）を尽くすには事供養を尽くさなければならない。

心の中で手を合わす、心の中で拝んでいるというのは供養にならない。お盆には汗を流して仏壇や墓を掃除し、精一杯の供物を手向けることにより心からの供養ができるのである。

「慰霊の日」と供養

今年は戦後七十年の節目に当たることから、日本各地に於いて慰霊法要と平和を願う集会が開催されている。

去る六月二十三日は、沖縄戦終結を記念した「慰霊の日」であった。現地における慰霊式典の模様は、テレビ、新聞等のマスメディアでも大きく取り上げられた。

全日本仏教青年会（全日仏青、加盟宗派・団体十三）も百五十名が参加し、式典に列し一連の行事を執行した。融通念佛宗青年会からも有志六名が参加した。

全日仏青では慰霊の日に合わせて、二十二日と二十三日の両日、現地で全国大会を開催し、初日は世界三大宗教である仏教、キリスト教、イスラム教から講師を招き、講演のあとパネルディスカッションを開催した。「宗教対話」の重要性を認識し、共に平和への道筋を探り、宗教による平和への道を広く社会に発信することを誓った。広島、長崎とともに、沖縄こそ、「戦争を繰り返してはならない」地であることを発信できるとの思いからである。

翌二十三日は、戦争への反省、平和への祈りを胸に、戦没者追悼の誠を捧げて平和行進（慰霊行脚）を行った。糸満ロータリーを朝七時に出発し、口々に念仏を称えつつ、途中、戦禍が激しく多くの犠牲者を出した「ひめゆりの塔」や「黎明の塔」などでは全員で読経し、心からなる供養をささげた。その行程十三キロ、三時間に及ぶ行脚であった。

沖縄戦では太平洋戦争で唯一、日本国民の一般住民が地上戦を体験し、二十万人を超す戦死者のうち、約半数の九万四千人余りが子供を含む一般の県民であった。

戦争を経験していない青年僧が、この地で慰霊と平和祈願を行うということは、沖縄の地で戦争の空気を感じ、その凄惨さをわが身に置きかえることによって、平和への思いが一層強まり、祈りが本物になると信ずる。

遅々として進まない遺骨収集ひとつを例にとってみても、七十年を経過した今も、戦後はまだ終わっていないという実感がわく。

あの戦火の犠牲となった人たちの五十回忌はとうに過ぎたとはいえ、今ここに生かされている私たちは、かの人たちの無念の情を思うと、供養のまこと心を捧げずにいられないのである。

御遠忌法要 大盛況におわる！

お茶席

日本民謡奉納

和太鼓奉納

だんじり囃子奉納

本堂内の様子

稚児舞

八島念仏講

融通声明コンサート

仏教讃歌奉納

去る五月一日から七日までの七日間執り行われた御遠忌法要ですが、天候にも恵まれ大盛況のうちに終わりました。今回の開宗九百年記念・大通上人三百回御遠忌法要では、参詣者の皆さまと御一緒にお念仏を称える事に重点を置きました。実は、お念仏を称える事は、融通念佛宗の教えでは、最も大事にしている事のひとつなのです。

融通念佛宗で修行された方や伝法を受けられた方は御存知だと思いますが、本宗の大切な教えを授けて頂いた以上は、毎日百遍のお念仏と朝に目覚めて洗面を済ませば、すぐにお念仏を称えなければなりません。毎日百遍のお念仏を称える事を「日課念仏」、朝に目覚めてすぐに称えるお念仏を「早旦（そうたん）の念仏」といいます。お念仏を称えると有難い功徳が頂け、亡き人の御（み）霊（たま）をやすらぎの世界に導き、諸仏、諸菩薩、諸天善神の御守護を頂けます。そして自分が称えた念仏のちからだけではなく、他人の称えた念仏のちからが相互に融けあい、大きな功徳が頂けます。

今回の御遠忌法要では今までとは違って、皆さまと一緒にお念仏を称えるようにしました。驚いたことに、在家勤行式を行う時には、本堂は沢山の参詣者でたいへん賑わっており、そしてお勤めが始まると、皆さまが一斉にお声を出してお念仏を称えられました。それはそれは、素晴らしいお念仏でして、それぞれのお念仏が合わさり、そのお念仏が本堂の中で響き渡り、まるで本堂内の空気が浄化され、天から曼陀羅（まんだら）華（け）の花が降り注ぎ、美しい音楽が奏でられ、迦陵頻伽（かりょうびんが）という珍しい鳥が飛ぶ、極楽浄土さながらのあり難い空間が広がるように感じられ、思い出すと今でも感動が蘇えります。

在家勤行式の様子

この御遠忌法要では、本堂内のお勤めの他、各種イベントが繰り広げられ、お土産物にもなる地域物産展や東北支援物産展なども好評を博し、参詣者の方々全員が喜んで、笑顔でお帰りになられたようで、本当に大盛況に終わった事を有難く思っております。これは、ひとえに皆様のお念仏の功徳であり、皆様の信心の賜物であると思っております。

最後に皆様に短歌をご紹介したいと思います。

「極楽は十万億土といふけれど
ふりかえり見よ　ここも極楽」

平群町ゆるキャラ 左近くん

平群町ゆるキャラ 長屋くん

護摩供養

安堵念仏講

大和禅門講

燈明講

河内畳講

地域物産展

地域物産展

東北支援物産展

舞楽奉納

魚山流詠讃歌舞

御遠忌青年会だより

融通念佛宗 青年会会長　吉村　明山

すっかり恒例となりました青年会の「ぼさつさまぬりえ」の展示、今回も多数のご参加有難うございました。後日、青年会では毘沙門堂にて、ぬり絵の祈願法要を行いました。さまざまに工夫を凝らしたぬり絵に、色々な願い事が書かれています。家内安全や世界平和を願うもの、また将来の夢として野球選手やサッカー選手など、中には仮面ライダーやプリキュアになりたいというものもあり、個性豊かなぬり絵を見せて頂きました。テレビのヒーローのように、正義を愛する強くて優しい大人になってほしいとの願いを込めて祈願法要をさせて頂きました。

また、今回の御遠忌法要における記念事業といたしまして、青年会では、桂小枝さんをはじめ、四名の落語家さんにお越し頂き、「大念佛寺まんぶ落語会」を開催させて頂きました。たくさんの方にご来場頂き、笑い声いっぱいの楽しい会となりました。帰り際には、「いっぱい笑わせてもらったわ」「毎年あったらええのに」といったうれしいお言葉もたくさん頂戴しました。

今後、我々青年会としましても、融通念佛宗の九百年という歴史を受け取り、これから新しい歴史を築いていくためにも、私たちは自己を高め、念仏の輪を広められるような活動を目指していきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

万灯会への誘(いざな)い

毎年八月十六日に総本山　大念佛寺において万灯会法要が執り行われます。夕刻の頃、太陽が西に傾くと、ろうそくに順番に灯がともされます。そのろうそくの数が千基を超えるころには、辺(あた)りは夕闇に包まれ、ろうそくの明かりが揺らめき、本堂の正面は、普段にはない荘厳な雰囲気が満ちてきます。

訪れた方は、皆さまそれぞれの思いを胸に、手を合わされます。亡き人を弔う方、ご先祖さまに感謝される方、自分の両親を偲ぶ方……。それぞれの思いで合掌される姿は、皆さま美しく輝いておられます。合掌の姿ほど尊いものはありません。

吹く風にどことなく秋を感じさせられ、過ぎゆく月日に、儚(はかな)さを思うお盆の終わり、是非、万灯会にお参り下さい。

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

(月曜日～金曜日　一月十一日～十二月二十四日(八月休)

でんわ　〇六（六二四五）五一一〇

午後二時～五時迄

大念佛寺 年中行事ご案内（八月～年末）

◎八月十六日(日)　午後七時
盂蘭盆・法界大施餓鬼

◎八月十六日(日)　午後八時
万灯会

◎九月九日(水)
午前五時　半斎勤行
午前六時
大和御回在御出光
大念佛寺から毎年大和地方に御本尊の天得如来の画軸を奉持し、鉦を叩きながら末寺と檀家の家々を回り、念佛勧進・御祈祷・お祓いと先祖供養を行います。元祖聖応大師の念仏勧進の姿を今に伝える行事です。

◎九月十六日(水)
午前十一時
融通念仏会
ご一緒にお念仏を称えましょう。

◎九月十六日(水)
午後一時
百万遍会（大数珠繰り）
数珠繰りの後、法主猊下の身体堅固のお加持が参詣者一人一人に授けられます。その後御札授与があります。

◎十月十五日(木)　午前十時
亀鉦まつり
本山に伝わる亀鉦をお祀りする法要の後、融通教会会員による詠讃歌舞奉納、「亀鉦由来和讃」等を詠唱します。

◎十一月三日(火・祝)
午前十一時・午後二時
胎内仏納骨法要

◎十一月十四日(土)
午後一時
十夜会
本堂に於いて布教、詠讃歌舞奉納等があります。
（厄除がゆ施与）

◎十二月一日(火)
午前十一時
後小松天皇忌

◎十二月十七日(木)　正午
大和御回在御帰院

◎十二月三十一日(木)
午後十一時
除夜法要
（鐘撞き、ぜんざい施与）

◎毎月二十六日
（日曜日の場合は翌日になります）
午後一時三十分
定例布教

◆行事予定は変更する場合があります。

★写経のご案内
毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経（一巻 千円）を行っております。

★納骨のご案内
本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。尚、納骨の際は、事前にお問い合わせ下さい。

★瓦勧進のご案内
一口二千円で本堂に於いて受け付けております。

●お問い合わせ
大念佛寺宗務所
☎〇六―六七九一―〇〇二六

融通念佛宗　総本山
大念佛寺

暑中御伺

法主	倍巌　良舜
管長	
宗務総長	吉村　暲英
教学部長	中江　慈光
庶務部長	岡田　眞澄
財務部長	北川　全宏